

国際文化研修に参加して

1 この研修プログラム全体について

私は、この国際文化研修でさまざまなことを学んだり思ったりした。私がこの国際文化研修に参加しようと思ったのは、インドに興味があり、インドに実際に行ってみたく思ったからである。インドでインド料理を食べたり、インドの学生と交流したりしたいと思っていた。しかし、こんな漠然とした理由ではなくもっと具体的な理由と持っておくべきだったのかなと後悔した。その理由は、インドにいる間に大学の教授や学生など多くの人にインドの何に興味があるか何を学びたいかということ聞かれる機会が多くあった。私はインドの建築や食文化に興味があったが、建築はタージ・マハールだけしか知らなかったし、食文化もナンやカレーくらいしか知らなかった。だから深く聞かれてもあまり答えられなかった。また、ボランティア学生と話すときも何を話していいかわからず、向こうの質問に答えるだけのことが多かった。もっと自分の知りたいことや学びたいことを明確に持っている学生との話ももっとできたように思う。このことと同じように思ったことは、自分の考えをもっと持ち伝える力が自分には足りないなと思った。これは、自分の将来の夢や自分が何故文化学部にいるかという質問をされたときに答えられなかったからだ。これもこの国際文化研修に参加した理由と同じで漠然としたことしかなく明確にあるわけではないので答えることができなかった。しかし、インドの学生やインドにボランティアに来ていた韓国の学生ははっきりと答えることができていた。もっと自分の将来のことや自分自身について考えなければいけないなと思った。このようにマイナスこともあったがもちろんプラスのことも多くあった。まず、さまざまな人と関わったり、仲良くなれたりしたことである。インドにいる間は大学でも大学外でもいろんな人と関わった。多くかかわったのはボランティア学生や先生である。ボランティア学生と移動する間に喋ったり、休み時間に遊んだり楽しかった。大学から帰ってからはボーイさんが部屋にいたのでいろんな話をしたり、日本食を作り食べてもらったりした。ボーイさんとは本当に仲良くなり、日本に帰っても Face book でやりとりをしている。また、帰りの飛行機の隣がインドの人だったので機内食を食べる間話をしたり、お土産を買う時に店員さんと話をしたりした。私は、このようにインドの人と関わる時間がとても楽しく好きだった。もちろん、一緒に行った日本の学生とも仲良くなれた。この国際文化研修で初めて知り合った人たちばかりだったが二週間一緒に生活すると自然に仲良くなり良い友達になれたので良かった。また、具体的に理由はわからないがインドの二週間で考え方が変わった。インドの人々は自分の考えをきちんと持ち自信を持って生きているように思えた。また日本とは文化も違ってい

で驚くことも多かった。私はいつも考えてしまいすぎていろいろ悩むことが多いが、インドで過ごしてもっと楽に自分に自信を持って生きようと思った。だから、挑戦しようか迷っていたことも日本に帰ってきてから挑戦してみたいし、諦めていたことも諦めないことしにそれに向かって頑張っている。このようにプラスとマイナスがあり二週間毎日新しいことの発見で刺激を受けた毎日でもとても貴重な体験ができた。日本に帰ってからインドが恋しくて何度も写真を見返した。近い将来もう一度インドに行きたいと思っている。

2 授業について

(1) ヨーガ

私は、今までヨガをしたことがなく、知識も全くなかった。しかし、ヨガを学べるのがすごく楽しみだった。ヨガの授業は Vajrasana という正座のような格好から Prayer というお祈りをしながら始まった。初めは先生のするように真似していたがだんだん慣れて覚えるようになった。お祈りの内容も全く分からなかったが、ヒンディー語の授業の中で出てきた単語がその中にあり、その単語だけが意味が分かりうれしかった。蓮の格好である Padmasana や Vajrasana、また呼吸の仕方や簡単な動きは覚えたのでホテルに帰ってから友人としたり、日本に帰ってきてからもたまにしたりしている。しかし、私は腰痛を持っているのでヨガの動きもしんどい時がありリラックスしきれなかったのが残念である。ボランティア学生もヨガの授業に参加することがあったのだがみんなできていたので聞いてみると大学に入ればしばらくはヨガの授業が必修ということを知ってくれた。インドではヨガは大切なものなのだなどと改めて知った。

(2) ヒンディー語

私は、ヒンディー語もヨガと同じく全く触れたことがなく事前学習で学んだ程度であった。現地の人から学べるのがとても楽しみであった。ヒンディー語の授業ではまずヒンディーの文字から学んだ。おもしろいことに日本のあいうえおと似ていた。初めはうまく書くことができなかったが練習し、授業を受けているうちに書けたり読めたりできるようになったのが嬉しかった。また、簡単な自己紹介もできるようになった。インドのお祭りについても学んだ。ヒンディー語や英語での説明だったので細かい部分など正確には理解することができず大まかにしか理解できなかったが映像などを見て簡単にはわかることができた。ヒンディー語の授業は宿題が出てそれをホテルに帰ってみんなでする時間も好きだった。

(3) 英語

英語の授業では英語の基本的なものを学んだ。英語で英語の授業を学ぶのは難

しかった。また、英語でのスピーチもあった。お題を渡されてその場で考えてスピーチをするというものであった。その場でお題を見て考えてそれを英語で言うというのはとても難しかった。まず日本語で考える時点ですまじった。ゆっくり考えてスピーチというものはかなり違った。自分には自分の考えていることを英語で表現する能力がないなと思った。もっと単語や表現を学ばなければいけないと痛感した。

(4) 経済・経営

この授業ではインドの経済や、日本とアメリカの経営の違いなどを学んだ。インドは昔イギリスにコントロールされており、社会主義であった。しかし、1991年に大蔵大臣が自由化のライセンスを掲げた。今のインドは世界第四位のGDPであり、経済面でも成長している。インドの経済は市場中心である。インドの経済について今まで学ぶことがなかったのでとても勉強になった。また、日本とアメリカの経営の違いについても学んだ。日本は株主よりも客を重視する。さまざまな決定に関しても個人の意志ではなく集合的な意志で決定も遅いとされている。連帯責任を取り、会社に就職したら終身雇用制が多く、あまり争わないのか日本である。しかし、アメリカでは株主がトップであり、個人の意志を持ち決定も早い。また、転職をし、連帯責任ではなく個人の責任を取る。この考え方は海外でも取り入れられている。このような日本とアメリカの違いを初めて学びとてもおもしろかった。

3 文化交流プログラムについて

インドでの授業の後はさまざまな学生などと文化交流をした。踊りや歌、楽器の演奏などを披露してくれた。インドの人々はみんな何か一つは得意なことを持っているなど感じた。私には人に披露できるようなものがないので自信を持って披露してくれる学生たちを尊敬した。インドの学生が様々なことをしてくれたので私たちは折り紙をよくプレゼントした。折り紙をプレゼントするとみんなとても喜んでくれて私もとても嬉しかった。文化交流のプログラムの中で私が一番印象に残っていることはショッピングモールで折り紙をしたことである。折り紙を作り子供たちにプレゼントした。子供たちはとても喜んでくれた。私は大学に入って部活に入り、週二回子供たちなどと遊ぶボランティアをしている。そこでよく折り紙をするのだが、いつもみんな笑顔で喜んでくれる。インドの子供たちも同じ笑顔になってくれてとても嬉しかった。子供たちが喜んでいる笑顔がずっと私の中にある。

4 遠足について

(1) ムンバイ

ムンバイでは、インド門やガンジーの住んでいた家などに行った。インド門はとても賑わっていた。インド門のまわりはアラビア海であった。自分の目の前にアラビア海が広がっていることに興奮した。インド門はとても綺麗で私は建築が好きなので見る事ができて嬉しかった。ガンジーの住んでいた家にはガンジーが実際にいた部屋や使っていた食器などが展示されていた。ガンジーについて歴史の授業で習った程度で詳しく知らなかったのもっと勉強しておくべきだったなと思った。また、ムンバイでお昼ご飯にマクドナルドに行った。ベジタリアン用のハンバーガーなどが売っていた。私は日本にもあるメニューを食べたのだが日本に比べて安かった。しかし、インドのものにしては高いのかなと感じた。飲み物が炭酸飲料とコーヒーしかなく驚いた。

(2) Karla Caves

Karla Caves は仏教遺跡である。ジブリ映画の世界に入ったようであった。とても大きく自然を感じた。見学しているときにずっと私たちに説明をしてくれるおじいさんがいた。私はその人は私たちが頼んでいるガイドの方なのかなと思っていた。しかし、そうではなくて言い方が悪いかもしれないが私たちに勝手についてきたらしく最後にお金を求められた。日本では考えられないなと思った。また、この Karla Caves の隣に別の宗教のお寺があった。インドは宗教のそのようなことをきっちりわけると思っていたので意外であった。

5 ボランティアについて

ボランティアの学生はみんな親切であった。食事中はもちろん移動中を常に気をかけてくれとてもお世話になった。インドの遊びを教えてくれたり、喋ったりとても楽しい時間を過ごすことができた。初めはなかなかコミュニケーションが取れなく戸惑うこともあった。だんだん仲良くなることができて良かった。また、あまり喋ることができなかった時から名前を覚えてくれていたことがすごく嬉しかった。しかし、時間の感覚が私たちとは違うらしく私たちは授業に遅刻せずに余裕を持って行動したかったが、それを伝えても無理だったことがあったのでそこは難しいなと思った。日本に帰ってからメッセージのやり取りをしている。最終日にみんなに会えると思っていたのだが会えなくて、お礼も直接言えず、プレゼントも直接渡すことができなかったのが残念である。

6 その他（とくに来年度の参加者にとって参考になること、プログラムの改善など）

初めにも書いたように私には参加したいと思った理由が明確になかったのでインドの何に、どんなことに興味があるのかということをしちんと考えていくべきだと思った。インドにいる間に自分の興味について聞かれることは多くあると思うし、そこで答えられるようにしておくといふと思う。その方がインドについて詳しく学べることができると思うし、私は現地の人から学べるよい機会だったのにもったいないことをしたなと思っている。来年度参加する人には私みたいな後悔をしてほしくない。インドでの二週間は本当に内容の濃いもので素晴らしい経験だったのでぜひいろんな人に参加してほしい。そして、プログラムの改善点だが、もう少しきっちりとスケジュールを立てて欲しかった。私たちの希望通りにプログラムを随時変更してくれるのは大変ありがたかったが逆にその変更が曖昧で伝わりきってなかった部分があったからだ。例えばクリケットをする予定の日にクリケットチームがいなくてあまりできなかったことや、ムンバイでのお土産を買う時間もあまりなかったことなどである。この部分を改善してもらえることができたらもっと充実したものになると思う。この国際文化研修は今までの人生の中でしたことのない経験を多くすることができさまざまな良い思い出ができ自分も成長できた。この国産文化研修に参加できて本当に良かった。